

## 令和7年度「熊本の学び」研究指定校事業 事業実績報告書

### 1 研究の内容

授業力向上 (  ) ・道徳教育 (  ) ・キャリア教育 (  ) ・特別活動 (  )  
カリキュラム・マネジメント (  ) ・その他 (  ) (内容: 人権教育  )

### 2 学校の概要

<児童(又は生徒)数・学級数(令和7年(2025年)4月現在)> (単位:人)

プロジェクト校(研究指定校)	児童生徒数	教員数	校長名	研究主任名
南阿蘇村立南阿蘇中学校	232人	28人	大谷 浩介	秦 梓

### 3 研究主題

主体的に他者と協働し、学ぶ楽しさを実感できる生徒の育成  
～安心と信頼にあふれ、高め合う集団づくりを通して～

### 4 研究主題設定の理由

令和6年度は、主に授業力向上と協働的な学びを中心に研究に取り組んだ。その結果、教師は教材研究に取り組み、授業力は向上したものの、協働的な学びに関しては、学校・学級の支持的風土づくりが急務となっている。また、生徒が主体的に学習に取り組みたいと思える授業構想についても引き続き課題が残った。R6県学調の結果を見ても、現中3の国語、英語以外は全国値を下回っており、本校の学力向上への課題解決のためにも、基礎基本の定着が必要であると言える。さらに、本校の生徒は、自分の考えを相手に伝えることを苦手とする生徒も少なくない。学級の基盤づくり(支持的風土)こそが協働学習を行う上で最低限の基盤となると考える。そこで、様々な出会いを通して、自分の生き方を考える機会を設定し、課題を解決していくために学ぶ必要性を感じながら、主体的に他者と協働し、互いに高め合い学ぶ楽しさを共有できる集団づくりに取り組めば、生涯にわたって学び続けようとする力が身に付くのではないかと考え、本研究主題とした。

### 5 研究の具体的な取組内容

- 評定1及び2の生徒の把握と該当する生徒に焦点化した魅力ある学習課題の設定と授業構成の工夫
- 朝自習の工夫(基礎基本の徹底)
- プランニングの指導
- 出会いを大切にしたい人権教育の実践
- 生徒主体の企画・イベントの開催
- 起業体験学習に取り組みキャリア形成を行う
- キャリア教育における起業活動、支持的風土を大切にしたいなかまづくり

## 6 目指す成果【検証方法】

- 課題解決に向けて自ら取り組む生徒の姿
- なかまと協働し、考えを広げ深める生徒の姿
- 他者を尊重し、社会のために貢献しようとする生徒の姿
- 自律して学び続ける生徒の姿

## 7 研究実施の実際

時 期	実施内容
通年	スクール・アシスト事業 指導主事派遣 講師 阿蘇教育事務所指導主事 市町村教育局義務教育課指導主事
6月11日	校内研修 熊本の学びプロジェクト校として 講師 阿蘇教育事務所指導主事 志賀 文美
6月30日	提案授業 (学力部会) 3年生 国語科 潤井 梨江 講師 阿蘇教育事務所指導主事 志賀 文美 阿蘇教育事務所指導主事 脇田 慎也
7月30日	校内研修 GIGA スクールプロジェクト職員研修 講師 熊本県教育庁教育政策課指導主事 中村 彰良 市町村教育局義務教育課指導主事 水上 洋平
8月～12月 (計3回)	熊本の学びプロジェクト授業づくり支援 (1年生 英語科：河津 綾) 講師 阿蘇教育事務所指導主事 志賀 文美
10月～12月 (計3回) ※オンライン含む	熊本の学びプロジェクト・GIGA スクールプロジェクト授業づくり支援 (3年生総合的な学習の時間：島田 礼二) 講師 教育政策課指導主事 中村 彰良 市町村教育局義務教育課指導主事 松下 智恵 阿蘇教育事務所指導主事 脇田 慎也
7月～ 月1回 (計4回)	人権教育授業づくり支援 講師 熊本県人教顧問 吉田 文男 熊本県人教顧問 森山 英治
11月27日	阿蘇郡市人権教育授業研究会 公開授業 授業者 2年生 学活 上林 匠 助言者 熊本県人教顧問 吉田 文男 授業者 3年生 学活 平野 達也 助言者 熊本県人教顧問 森山 英治
12月19日	熊本の学びプロジェクト・GIGA スクール構想 公開授業 授業者 1年生 英語科 河津 綾 助言者 阿蘇教育事務所指導主事 志賀 文美 授業者 3年生 総合的な学習の時間 島田 礼二 助言者 教育政策課指導主事 中村 彰良 市町村教育局義務教育課指導主事 松下 智恵 阿蘇教育事務所指導主事 脇田 慎也

## 8 市町村教育委員会の役割及び取組

- 南阿蘇村学校教育指導員による参観授業及び指導助言（年間15回）
- 教育委員会と研究部との情報交換及び指導、助言
- 村教育研究会公開授業研究会との共催

## 9 研究の成果【検証方法】

- 本校での育成を目指す資質・能力である「協働する力」「考えを持ち発信する力」「積極的に挑戦する力」も育成を目指し取り組んだ結果、「協働する力」「積極的に挑戦する力」において全国や県の肯定率を比較すると大きく上回った。

### 【県学力・学習状況調査】

- 昨年12月に行われた熊本県学力・学習状況調査の学力面（国語・数学・英語）の数値結果から、推定全国値及び県の平均正答率と比較すると国語、英語がおおむね良好であった一方、数学に課題がみられた。これは正答率3割未満の生徒の割合にもそのまま反映している。

## 10 研究の課題と今後の展望

- 全学年、数学の結果において、県平均を下回っているため、基礎基本の定着に力を入れていく必要がある。
- i-checkの追加質問にある県の重点指標3の「授業の内容はよく分かりますか」に対する子供の肯定率は県と比較しても良好であった。子供たちの「分かる」という意識と「できる」という結果をいかに結び付けていくかが、今後の課題であると考えられる。
- 12月に行ったi-checkの「自分から発信しているか」、「発表している人に対する質問ができているか」という項目で数値が低く、発信力には課題が見られる。

## 11 研究成果の普及

- 公開授業（12月）【南阿蘇村教育委員会、本校職員と参観された先生方】
- リーフレット（12月）【南阿蘇村教育委員会、本校職員と参観された先生方】
- 研究論文（2月）【南阿蘇村教育委員会、本校職員】